

平成 26 年 12 月 15 日

シンポジウム参加機関及び参加予定者 各位

教育学習支援検討特別委員会  
事例普遍化小委員会

「ラーニングコモンズの在り方」(案) への意見及び質問の募集 (依頼)

事例普遍化小委員会では、複数大学におけるラーニングコモンズの設置事例や、学習支援の事例等を収集し、ラーニングコモンズの設置目的や運営の普遍的な側面について、大学図書館間で共通理解が可能かどうか検討して参りました。

添付した資料 1、2 は、その検討を踏まえて、ラーニングコモンズの普遍的な在り方について提案を行うものです。

ラーニングコモンズは各大学の教育環境や学生の実際のニーズに合わせて目的を設定し、個性的に運営するものです。一方で、ラーニングコモンズが学生支援の在り方を規定する大きな要素になりつつある現在、その目的や手段等について大きな枠組みを共有することは今後の大学図書館のサービスの方向性を考える場合、避けては通れない課題とも考えられます。この提案はそうした課題に対する 1 つの検討結果です。

この提案をご覧頂き、各大学でのご経験等も踏まえて、自由なご意見やご質問を頂けるようお願い致します。なお、頂いたご意見については、シンポジウムの場所で簡単にご紹介すると共に、本特別委員会の報告書に掲載予定の最終的な提案に出来る限り反映する予定です。

資料 1 は、ラーニングコモンズの在り方について共通理解のために提案を行うものです。資料 2 は、この提案に基づき、実践的なツールとして使えるチェックリストです。

資料 1 ラーニングコモンズ (LC) の在り方 (共通理解のために) (案)

資料 2 ラーニングコモンズチェックリスト

- (1) LC の基本構成
- (2) LC の深化の方向性
- (3) LC 整備セルフチェックリスト (概要記述)
- (4) LC 整備セルフチェックリスト (詳細記述)

## ラーニングコモンズ (LC) の在り方 (共通理解のために) (案)

平成 26 年 12 月 15 日

実践事例普遍化小委員会

### 内容 0. 始めに

1. 前提
2. LC とは何か
3. LC の目的
4. 自立的な学修 (主体的な「学び」) のために必要な学生のスキル
5. LC で想定される学習活動及び支援
6. LC を構成する要素
7. LC を整備する建物 (場所) 及び組織の単位
8. LC の拡張と進化
9. LC の具体的な構成要素 (例示)
10. LC の方針
11. 大学図書館の今後のサービスについて

### はじめに

ラーニングコモンズ (以下、LC) は、ここ数年で国公立の設置種別を超えて拡大し、今や大学図書館の学生支援を特徴づける大きな潮流となりつつある。国立大学においてもほとんどの大学が、何らかの形で LC を設置しており、大学図書館のサービスを考える上で無視できない潮流となっている。

本稿は、このような状況を踏まえて、LC による図書館サービスの今後について緩やかな共通理解を醸成することを目的として、LC の在り方について提案を行うものである。

もとより、LC の設置形態や LC を活用して行われるサービスは各大学がそれぞれの多様な環境や教育に応じて想像力を発揮して自由に決定し、利用者のニーズに対応しつつ、可能な限り柔軟に運用を行うものである。しかし、わが国の LC の導入事情に見られるように、識者や図書館関係者による報告や指摘、事例報告などを除いて、LC を巡って本質的な議論が行われ、LC に関する理解が共有されているとは言い難い。

この提案が、LC による図書館の学習支援の在り方、さらには大学図書館のサービス理念がどのような方向を目指すべきか、その議論の一助となれば幸いである。

### 1. 前提

大学図書館は、大学の一組織として、その使命、すなわち教育、研究、社会貢献の 3 つの活動に貢献することが求められている。LC は、大学教育の充実に資するための活動の 1 つであり、その実現にあたっては、経営層や教育担当部署などとの学内合意形成が欠かせない。こう

した認識に立ちつつ、本稿では、大学図書館が主体となって提供する新たな教育・学習支援サービスの1つとして、LCの在り方を提案する。

## 2. LCとは何か

LCとは、学習者中心（Learner-Centered）の新たな教育方法（Pedagogy）の広がりとして要請<sup>ii</sup>を踏まえて、授業時間以外に学生が行う自学自習や協同学習（授業に関連した学習及び授業に関連しない学習の両方を含む）など様々な学習形態へ適応するために大学図書館等が提供する学習環境（施設、設備及び情報・コンテンツ）と、この学習環境の活用を通して学生の主体的な「学び」を促す仕組み（人的支援）の総体を指す。

## 3. LCの目的

各大学の教育目的を実現するため、経営層や教育担当部署との認識共有及び連携を通じて、学習者中心の教育の不可欠な構成要素となることにより、主体的な「学び」を理解し、自立した学習活動を行う学生を養成することである。

## 4. 自立的な学習（主体的な「学び」）のために必要な学生のスキル

以下の4つのスキルは、いわゆる21世紀型のスキル<sup>iii</sup>に概ね対応する（脚注参照）。

### (1) 学士力を構成する不可欠の能力

#### ① 情報リテラシー<sup>iv</sup>

授業外の学習において、自立的に情報ニーズ（課題）を把握し、情報を探索・収集・分析・評価し、新たな知識として総合するまでの一貫した能力。

#### ② アカデミックスキル<sup>v</sup>

学生が学士として必要な知識体系を習得するために、特に初年時教育において習得が必須の、情報リテラシーを核とする共通スキル。

### (2) コミュニケーション能力・コミュニティ形成能力

学習者中心の教育の主要な手法であるアクティブ・ラーニングの実践に必須のソーシャル・スキル。

### (3) その他

大学生活全般において学生の習得が臨まれる多種多様なソーシャル・スキル。各大学の教育目的や学習・生活環境に応じて多様なスキルがあり得る。

## 5. LCで想定される代表的な学習活動及び学習支援<sup>vi</sup>

- (1) 情報機器や電子的なリソース、図書館資料等を利用した自学自習活動
- (2) 協同学習やグループ学習による新たな形式の「学び」
- (3) 自主的なコミュニティ活動
- (4) 情報リテラシー及びアカデミックスキルの養成（教職員や学生等による支援活動）

(5) その他

6. LCを構成する要素<sup>vii</sup>

4の各能力の養成と5の諸活動の促進のため、LCは以下の3つの要素から構成される。

6-1. 物理的リソースとしてのLC

場所としてのLC。学習者中心の教育と連携（関連）した方針に基づき、多様な学習活動を保障する一連の施設と設備。LCとして想定される建物あるいはフロアー、各種能力を習得するために必要なICT関連の諸設備、協同学習や討議・プレゼンテーション等を可能にするフロアーや設備・什器類、その他の物理的環境。

6-2. アカデミックリソースとしてのLC

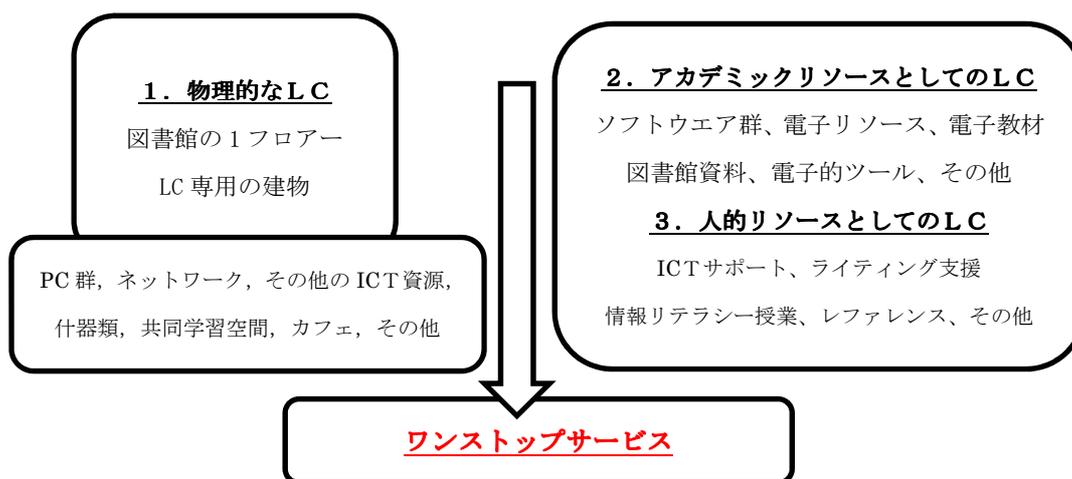
情報リテラシー及びアカデミックスキルを養成・習得し、学習活動の核となる情報の探索、収集、分析、評価及び組織化に必要なリソース群。

電子媒体及び紙媒体の図書や雑誌、蔵書目録、文献情報データベースやディスカバリー・サービス、電子的教材、各種ソフトウェア・ツール、そのほかのインターネット上の電子リソース等の総体から成る。

6-3. 人的リソースとしてのLC

自立した学習活動を可能にするため、授業との連携（関連）を含む学習活動の全体の文脈の中で、学生を支援する各種の人的サポート。情報リテラシー関連講習、ICTサポート、レファレンスや図書館ガイダンス、ライティング支援、論文執筆支援、各種自主的活動のサポートなど多様な学習サポートを包括する。広義には大学生活で習得が必要とされる多種多様なスキルのための人的サポートを含む。

<LCの3つの構成要素>



7. LCを整備する建物（場所）及び組織の単位

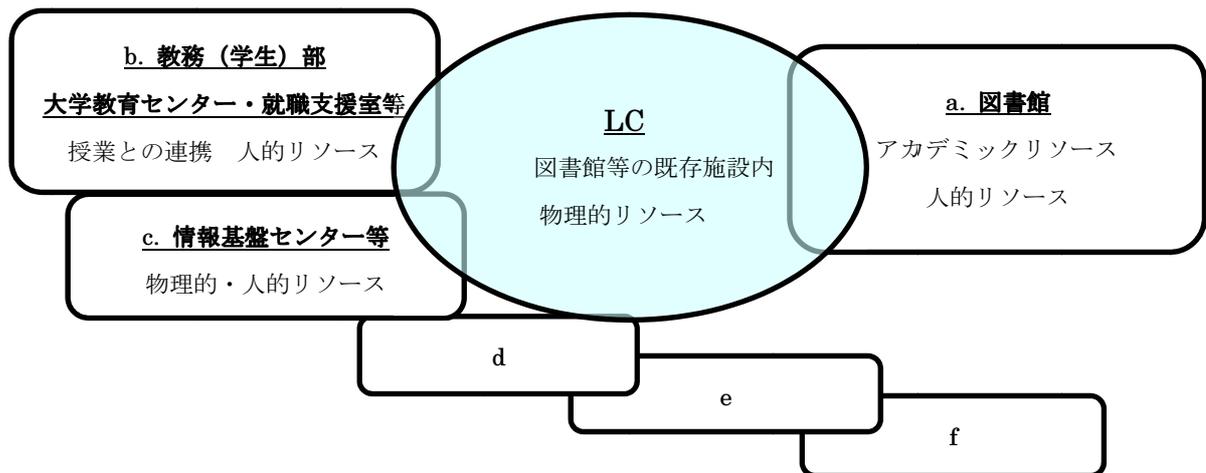
LCは6に述べた3つの要素から構成され、授業外において自学自習を可能にする諸機能を一括して提供する。

学生にとって、もっとも使いやすかつシンプルな LC は、一つの物理的単位（建物あるいはフロアー）に設置され、ワンストップで全サービスが提供されることである。本稿では、最適な LC 設置場所を大学図書館とする。

図書館は、電子媒体及び紙媒体の図書や雑誌をはじめ、情報リテラシー・アカデミックスキルの育成に必須の学術情報資源へのアクセスを提供できる場であることはもちろん、大学の全構成員の共有施設であることから、LC の設置、運営に適した場である。

一方、学生の多様なニーズに対応するワンストップサービスを実現するためには、図書館が用意できる学習資源だけでは不十分である。教務部、ライティング・センター、留学生センターなどの学習支援部署、教員の教育活動を支援する FD 担当部署、コンピュータ資源を提供する情報センター、そして教育を担当する教員など、学内の他部署と連携し、人的・物理的資源を提供する必要がある。この場合、複数の施設（フロアー）が連携して、機能的にワンストップサービスを提供することもあり得る。

#### <LC の構成に関する考え方>



\*連携組織対象は LC のサービス内容により拡大（abc→def・・・）

\* 1つの施設（あるいはフロアー）で提供できない場合は、複数の施設（あるいはフロアー）が連携してサービスを提供

#### 8. LC の拡張と進化

LC は固定したものではなく、教育と学習者のニーズに応じて、拡張と進化がありえるため、サービスや施設・設備の提供において十分にフレキシブルであるべきである。

LC の拡張にあたっては、いくつかの方向が考えられる。たとえば、LC が導入される場合、物理的リソースとしての LC が先行されるのが一般的であるが、それをいかに学習と結びつけるかが大きな課題となる。図書館員による情報リテラシー教育はもちろん、学習支

援部署、FD 担当部署、情報センター、そして教員など、教育（授業）との関連づけを図るため、学内の担当部署との連携は必須である。

これらの連携は、LC の設置段階で実現されることもあり得るし、図書館単独のプロジェクトとして設置された LC の拡張・進化として段階を踏まえて実現されることもありうる。

教育（授業）との関連付けの強化と連携の進捗とともに、LC で提供されるワンストップサービスは拡張・深化することが可能になる。

LC の運営にあたっては、大学教育そのものが変化しつつあることに注意を向ける必要がある。教育中心から学習中心へ、教員中心から学生中心へ、知識の伝達から知識の定着・活用へという今日の大学教育の変化は、授業や学習活動そのものに変化をもたらしている。反転授業をはじめ、e ラーニングの基盤を生かした教育方法も普及することが予想される。

教育環境の変化に対して、LC はどのような機能を充実させ、学習や教育の支援を図っていくのかを視野に入れて、拡張と進化を遂げることが必要である。

LC が利用状況や学習・教育への貢献度を評価するためのエビデンスの収集と分析も欠かせない。こうしたエビデンスをも基盤にしつつ、拡張及び進化の方向を常に客観的に検証することが必要である。

## 9. LC の具体的な構成要素（例示）

### （1）物理的なリソース

#### <フロアー設計>

共同学習スペース    PC 利用スペース    グループ学習スペース  
プレゼンテーションスペース    人的サポートスペース（デスク）  
カフェ（飲食）スペース    リラックススペース    イベントスペース

#### <設備等>

テーブル    椅子    ホワイトボード    電子ボード    ソファ  
プレゼンテーション用装置（プロジェクター、専用 PC）    遠隔放送設備  
PC（据え付け、貸出）    ワークステーション    プリンター    スキャナー  
ネットワーク（有線、無線）    電源

### （2）アカデミックリソース

ソフトウェア    電子的ツール    電子リソース（電子ジャーナル・ブック、DB 等）  
各種支援資料（マニュアル類、就職関係、留学関係、生活関係、進学関係）  
ディスカバリー・サービス    OPAC    電子教材    図書館資料（印刷体）  
学生ポータルサービス（教務システム＝履修登録、レポート提出、各種連絡）

### （3）人的リソース

ICT サポート    図書館レファレンス    情報リテラシー    アカデミックリテラシー  
留学（生）サポート    学生生活サポート    就職サポート    進学サポート  
雇用形態（TA、SA、PA、職員スタッフ、教員）

#### (4) その他

LCの方針及びエリアの区切りや用途がわかるサインシステムなど

### 10. LCの方針

LCは学習者中心の教育方法に基づきながら、所属する機関の教育目的に合わせて個別の目的を持ちうる。LCは目的とそれに沿った利用について、明示された方針を持つことが望ましい。方針は以下の項目から構成される。

- (1) LCで期待される活動についての記述。教育目的に沿った記述。
- (2) LCで可能な活動についての記述。より具体的な利用者向けの利用細則。
- (3) 提供される人的サポートについての記述。
- (4) その他

### 11. 今後の大学図書館サービスについて

大学図書館の運営は、学術情報を収集、整理、提供、保存することを目的とする。そして、学術情報が利用される局面で、学術情報の利用の利便性を、利用者のスキル・知識の面で向上させることが、特に学生を対象とする利用者サービスの最大の課題の1つである。

具体的には、印刷資料、電子ジャーナル、データベース、OPAC、ILL、Discovery Service、図書館資料の電子化、あるいは、機関リポジトリによる研究成果の電子化・発信も含めて、学術情報を蓄積して利用可能なコンテンツの増加やシステムのユーザーインターフェースの改善を図ることと共に、利用者ガイダンスや利用者教育、情報リテラシー教育等の直接的サービスにより、利用者の情報入手の利便性を向上させることが利用者サービスの目的である。

本稿のLCの定義及び目的に従うならば、図書館のサービス目的(の1つ)は、こうした学術情報の利用サポートというサービス機能の提供(=支援)を超えて、情報リテラシーやアカデミックスキル、コミュニケーション能力という観点から学生の学士力を養成することに一歩踏み込む(=教育)<sup>viii</sup>が必要である。

実際多くの大学では初年時教育において、図書館(学術情報)の利用ガイダンスを内容とする授業を担当しており、教員から依頼されて情報リテラシー授業を出張形式により行うことも増加している。これらは教育課程において学生に必要と考えられるスキルの養成に図書館が関与している証左であるが、図書館サービスの今後の展望として、その位置づけをより明確にすることが必要である。また、学士力の養成という目的に対しては、情報リテラシーのような従来から行われている図書館サービスを越えた多様な人的支援もあり得る。

人的サービスの先にある教育目的を踏まえて、図書館(員)の学生支援を制度化することにより大学における図書館のミッションを再定義し、これに伴い図書館職員の専門性についても教育との関連から見直しを行うべきである。こうした改善・改革により、図書館のサービス機能の刷新が教育改革に歩調を合わせて実現されることが望まれる。

(参考文献)

- i 科学技術・学術審議会 学術分科会 学術情報委員会「学修環境充実のための学術情報基盤の整備について（審議まとめ）」（平成 25 年 8 月）  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/031/houkoku/1338888.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/031/houkoku/1338888.htm)
- ii 中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」（平成 24 年 8 月）  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm)
- iii ATC21S (Assessment and Teaching of 21st Century Skills)  
21<sup>st</sup> Century Skill <http://www.atc21s.org/>
- iv 国立大学図書館協会学習教育支援特別委員会小委員会「高等教育のための情報リテラシー基準（ドラフト）draft2.1」（2014 年 2 月）  
<http://www.janul.jp/j/projects/sftl/seminar2013/04.pdf>
- v 高松正毅「初年次教育におけるアカデミックリテラシー教育の位置と大学教育の問題点」（高崎経済大学論集第 5 1 巻第 2 号 2008 51-65 頁）
- vi 河西由美子「自律と協同の学びを支える図書館」『学びの空間が大学を変える』（山内祐平編、2010 刊）所収
- vii Donald. R. Beagle, The Information Commons Handbook. (New York: Neal-Schuman Publishers Inc., 2004)
- viii 科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会「大学図書館の整備について（審議のまとめ）—変革する大学にあって求められる大学図書館像」（平成 22 年 12 月）  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1301602.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1301602.htm)  
（各サイトへのアクセスは平成 26 年 12 月 12 日確認）

(脚注)

21 世紀型スキルは下記の 4 つのカテゴリと 10 のスキルから構成される

- (1) 思考の方法
  - 1.創造性とイノベーション
  - 2.批判的思考、問題解決、意志決定
  - 3.学びの学習
- (2) 働く方法
  - 4.コミュニケーション
  - 5.ラボレーション（チームワーク）
- (3) 働くためのツール
  - 6.情報リテラシー
  - 7.ICT リテラシー
- (4) 世界の中で生きる
  - 8.地域とグローバルのよい市民であること（シチズンシップ）
  - 9.人生とキャリア発達
  - 10.個人の責任と社会的責任（異文化理解と異文化適応能力含む）

この提案では、「思考の方法」、「働くためのツール」が（1）に、「働く方法」が（2）に、「世界の中で生きる」が（3）（4）に概ね対応している。

| (1)組織及び運営、点検評価 |  | (2)物理的リソース(フロアデザイン)      |   | (3)物理的リソース(電算資源、什器等)             |   | (4)アカデミックリソース(電子資源、コンテンツ)  |                                     | (5)人的リソース(学生、教員、職員)            |                                |
|----------------|--|--------------------------|---|----------------------------------|---|----------------------------|-------------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
| ◎設置目的          | LC設置の目的。学生に期待する自立的活動(=教育目的)を明記。            | ◎共同学習スペース                | 共同学習、アクティブ・ラーニングを可能にするスペース                              | ◎可動式テーブル 椅子                      | 学習のスタイルに応じてセットが可能な可動式のテーブルと椅子                               | ◎各種ソフトウェア<br>◎各種電子的ツール     | MSオフィスやその他の汎用ソフトウェアなど               | ◎ICTサポート                       | PC等の利用支援                       |
| ◎運営方針          | LCの運営方針。学生が可能な活動形態を明記。                     | ◎PC利用スペース<br>◎PC共同利用スペース | PCを使って作業をする、あるいはPCを使って議論しながら作業するスペース                    | ◎ホワイトボード<br>◎電子ボード               | 共同学習において、利用可能なボード   | ◎電子リソース(電子ジャーナル、電子ブック、DB等) | 図書館が提供する電子的資料                       | ◎レファレンス<br>*バーチャルレファレンス        | 図書館による参考業務メール等を使った遠隔参考業務       |
| ◎設置組織          | LCの設置主体。複数もあり。                             | ◎グループ学習スペース              | ゼミなど特定の目的を持ったグループが閉じて共同学習出来るスペース                        | *ソファ                             | リラックス可能なソファ   | ◎各種マニュアル類                  | PCやソフトウェア、その他の電子資源を利用するためのマニュアル     | ◎情報リテラシー<br>◎各種ガイダンス           | 図書館による情報リテラシー授業や多様な資料等利用ガイダンス等 |
| ◎連携組織          | LCによる学生支援の連携組織。複数可能。                       | ◎人的サポートスペース              | LCの利用者に対する人的サポートのスペースないしはポイントあるいはデスク                    | ◎電源及びネットワーク(有線、無線)               | PC等の電子的機器に対応するインフラ  | ◎各種支援資料(アカデミックスキル関係)       | 論文(レポート)の書き方や引用の仕方などアカデミックスキルの解説書など | ◎アカデミックリテラシー(ライティング支援、論文執筆支援等) | 図書館その他の組織、TA等によるアカデミックリテラシー支援  |
| ◎運用組織(スタッフ)    | LC及び学生支援を担うスタッフ組織。                         | ◎プレゼンテーションスペース           | プレゼンテーションを投影して学習したり、プレゼンテーションの練習等を行うスペース。情報リテラシー授業も行える。 | ◎PC(備え付け)<br>◎PC(貸出)<br>◎iPad等   | PCやタブレット等の機器<br>自学自修、リテラシー教育等を可能にする                         | *各種支援資料(留学、留学生、就職、進学)      | 留学希望者や留学生、就職や進学に役に立つ情報源             | *就職支援<br>*進学支援<br>*キャリア支援      | 就職、進学等に関する人的支援やイベント等           |
| ◎利用者のフィードバック   | 設置時及びPDCAサイクルのための利用者のニーズ把握。                | ◎イベントスペース                | 学習会や発表会、ポスターセッション、サイエンスカフェ、サークルの発表会など自主的なイベントを行うスペース    | *ワークステーション                       | 高度な作業を可能にするハイエンドワークステーション等                                  | ◎ディスカバリーサービス、OPAC、リゾルバ     | 図書館が提供する電子的ポータル                     | *生活相談                          | 学生生活に関する人的支援                   |
| ◎評価と見直しのサイクル   | 利用者の評価を踏まえた見直しの方針を明示。                      | ◎リラックススペース               | 授業外の自学自修による長期滞在を可能にするくつろぎのスペース                          | ◎プリンター                           | 作成した電子的素材を出力するプリンター   | *電子教材(LMS)                 | インターネット等を通して提供されるLMSや電子教材           | *グローバル化支援<br>*留学生支援<br>*留学支援   | 留学生や留学希望者に対する人的支援              |
| ◎将来像(深化と拡大)    | 学習者中心の教育の一環となるための深化と拡大に対するフレキシビリティ(方針)の明示。 | ◎カフェ(飲食)スペース             | 同様の目的を可能にするカフェないしは飲食が可能なスペース                            | ◎プレゼンテーション設備(プロジェクター、専用PC等)      | プレゼンテーションスペースや共同学習スペースにおいて、電子的素材を投影するための設備。情報リテラシー授業にも活用可能。 | *学生向けポータルサービス(学務システム)      | 学生の履修登録やレポート提出、授業関連の情報を提供するポータルサービス | *各種自主活動支援                      | 学生の自主的活動の誘致                    |
| ◎整備の概要         | 全体概要の記述                                    | ◎サインシステム                 | LCのフロアデザインの意図等を明示する                                     | *テレビ会議システム<br>*遠隔放送設備(ustreamなど) | 遠隔会議関連設備及びイベント等を送信するための設備                                   |                            |                                     |                                |                                |
| ◎LC整備のセルフチェック  | LCの実現度のセルフチェック(LC全体の構成中の実現度)               |                          | 拡 張   |                                  | 拡 張   |                            | 拡 張                                 |                                | 拡 張                            |

\* このリストはLCが必要と現状で考えられる要素を網羅したもので、最低基準や標準を示すものではない。LCは固定したものではなく、組織目的や時代環境、利用者ニーズなどに応じて自由に変更ができるものである。  
\* ただし、LCの本質的から、構成要素は、◎(必須)、○(望ましい)、\*(LCの設置目的による)の3つに分類した。

|   | LC深化・進化・拡大の方向                        | A.運営上の指標(例)   | B.物理的指標(例)  | C.リソース上の指標(例)                                  | D.人的指標(例)  | 解説  |
|---|--------------------------------------|---|---|--|--|---|
| 1 | <b>ファーストステップ</b><br><b>図書館単独の整備</b>  | 図書館によるLCポリシー策定<br>組織及び運営に関する事項整備  | 協同学習・グループ学習に必要なスペース整備<br>協同学習・グループ学習に必要な可動式の什器類の整備                        | (既存の図書館資料等)                                    | 従来型の図書館スタッフによるレファレンス及びガイダンス  | <b>新たな教育ニーズへの図書館の対応</b><br>図書館に協同学習スペース等を付加し、LCの運用方針を立てる<br>静粛空間ではない利用環境の整備                                 |
| 2 | <b>セカンドステップ</b><br><b>単独の整備の深化</b>   | サービス多様化に応じた利用規則等の改訂<br>PC利用規程整備<br>学生・院生雇用規則の改定(制定)<br>組織及び運営に関する事項改訂   | PC等情報機器の導入・設置(図書館主体)<br>リラックススペース及び飲食スペースの設置<br>プレゼンテーションスペース及び関連機器の導入・設置 | 図書館ポータルシステム<br>各種電子リソース<br>プレゼンテーション用ソフト       | LC内で情報リテラシー教育<br>TAやSAによる学習支援及びPCサポート<br>学生の多様なニーズに対応する支援やイベントの開催等 | <b>共同学習空間以外の多様なニーズへの対応</b><br>情報利用環境の整備<br>情報リテラシー及びアクティブラーニングへの人的支援の拡大<br>学生の自主的活動の推進<br>長時間滞在可能な環境の整備     |
| 3 | <b>サードステップ</b><br><b>他組織との連携</b>     | 他組織との実質的な連携<br>PC利用に関する連携協定<br>成文化されない任意の連携<br>組織及び運営に関する事項改訂           | PC等設置(基盤センター連携)   | 学習ソフトウェア<br>統一認証システム<br>アカデミックスキル図書<br>PCマニュアル | PCサポート(基盤センター)<br>アカデミック・リテラシー等の多様な人的支援                            | <b>他組織との連携による教育目的の推進</b><br>全学PCの配置と連携を基礎にした人的サポート<br>初年時教育担当組織・教員等との連携<br>アカデミックスキル養成(ライティングセミナー等)のイベント等開催 |
| 4 | <b>LCの最終的なゴール</b><br><b>教育の一環となる</b> | 教育(授業等)に不可欠な制度、システムやコンテンツの導入<br>教育関連組織や教育関連委員会との連携協定等<br>組織及び運営に関する事項改訂 |   | 学生ポータルシステム<br>電子教材作成システム<br>LMSの導入 電子教材の利用     | ライティング支援(大学教育センター等)<br>課題解決型授業連携                                   | <b>学内組織との連携の制度化</b><br>ライティングセンター(アカデミックスキル)を関連組織と連携して設置<br>学務部や授業担当教員との連携による授業補完体制整備                       |

- \* 1～4の各段階は深化の方向性を表現する。
- \* 各指標の記述は例示であり、実際には各大学で個別的な記載を行う。
- \* 解説の黒字は各段階に対する考え方を解説したものである。この解説についても、各大学で個別的な記載(カスタマイズ)が可能である。

| 組織及び運営に関する事項    | (記入例)   | 記入 |
|-----------------|---|----|
| 1 設置目的          | (1)初年時学生の情報リテラシー能力養成の機会及び電子的学修環境を提供すること。<br>(2)学部学生のアクティブラーニング(新しい学びの方法)を支援・誘発すること。   |    |
| 2 運営方針          | (1)討議、プレゼンテーション、共同学習などの小グループでの自学自修を可能とする<br>(2)ICTによる電子的環境の利用と利用スキルの養成・自学自修を可能とする<br>(3)電子的リソースを使った調査、授業用の資料作成を可能とする<br>(4)上記3つを援助する人的サポートの利用を可能とする<br>(5)ペットボトルによる飲料持ち込みを可能とする   |    |
| 3 設置組織          | 附属図書館<br>設置責任者 附属図書館長   |    |
| 4 運営組織<br>連携組織  | 附属図書館及び情報基盤センター<br>プロジェクト責任者 情報サービス課長   |    |
| 5 運営組織(スタッフ)    | 附属図書館情報サービス課情報サービス係・レファレンス係<br>附属図書館雇用TA(大学院生)<br>情報基盤センター学生利用係<br>情報基盤センター派遣スタッフ(大学院生)   |    |
| 6 利用者のフィードバック   | (1)設置時にアンケートによるニーズ調査<br>(2)設置後、1年間隔で、インタビュー及びアンケートによる定点調査   |    |
| 7 評価と見直し        | 3年間のフィードバックを踏まえて評価を行い、評価に基づき見直し<br>* 初年時のユーザフィードバック→飲食範囲の拡大とスペースの設置への要望が多い<br>* 大きな変更でない場合、1年単位で見直すべきとの意見があり  |    |
| 8 将来像           | 設置当初は、全学PC設置によるインターネット等利用環境の整備と共同学習等への対応を第一義として、図書館が主体で基盤センターと連携した。親機関(大学)がスーパーグローバルA(文部科学省)実施校に指定されたため、特に留学(生)サービスの強化と多言語環境(人的支援、アカデミックリソース)を整備していく中期的な展望を描いている。   |    |
| 9 整備の概要         | 附属図書館内の参考図書・雑誌コーナー(静粛エリアを廃止)を模様替えして、LCを設置。LCには可動式テーブル、チェア、ホワイトボード、プレゼンテーション設備、全学PC(30台)を導入。会話及びペットボトル持ち込みを可能とする方針採用。全学PC及び学修支援(レファレンスを含むアカデミックスキル全般をカバー)のために、大学院生を雇用。設置については、図書館委員会による承認を得た。TA雇用については、財務担当理事・情報基盤センター長からの理解を得た。 |    |
| 10 LC整備のセルフチェック | 現状では、フェーズの1、2、3の基本的な整備を行ったと自己評価。自己評価及び将来像に基づき、さらに大学全体の教育目的への貢献度を高めるべきであり、フェーズ2、3に該当する活動を多様化する予定。<br>4に関しては学生部や教員との連携の難しさがあり、理想のゴールとして認識は持ち続けたい。   |    |

|   | LC深化・進化・拡大の方向          | A.運営上の指標 | B.物理的指標 | C.リソース上の指標 | D.人的指標 | 解説                     |
|---|------------------------|----------|---------|------------|--------|------------------------|
| 1 | ファーストステップ<br>図書館単独の整備  | 1-A      | 1-B     | 1-C        | 1-D    | 新たな教育ニーズへの図書館の独自対応     |
| 2 | セカンドステップ<br>単独の整備の深化   | 2-A      | 2-B     | 2-C        | 2-D    | 共同学習空間以外の多様なニーズへの柔軟な対応 |
| 3 | サードステップ<br>他組織との連携     | 3-A      | 3-B     | 3-C        | 3-D    | 他組織との連携による教育目的の推進      |
| 4 | LCの最終的なゴール<br>教育の一環となる | 4-A      | 4-B     | 4-C        | 4-D    | 学内組織との連携の制度化           |